

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	伊達市第2すまいる園		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校の建物を使用できている為広く、中高生にとってゆったりと過ごすことができ気持ちが安定している。	将来の自立に繋がるような活動や、環境を活かした活動の提供	個々に何が必要か(支援や身に付けるスキル)アセスメントし必要な支援をしていく。児童の興味のある活動を把握し提供する。
2	構造化された環境の中での支援。職員が常に側に居て支援するのではなく、自分で確認し理解をして行動できるような環境	物理的構造化、視覚情報の提供を主に考え支援している	職員間での情報共有を行い、児童が安心して過ごせる環境や関りの工夫を常に考えていく。自発的に行動できるように促しできた時は褒めて自分の行動に自信を持てるように支援する。
3	個別面談の実施により保護者との連携がとりやすくなっている。また日々の送迎や連絡帳を通して困りごとや日頃の児童の様子を把握し易く、支援の手だてになっている。	連絡帳には、児童ができたことを主に記入し、不適切行動については柔らかく記入するようにしている。日々の療育内容を児童記録として記入し活用している。記入用紙を複写式にしたことで保護者も保管し易くなっている。	連絡帳の活用、個別面談の実施により利用児の様子を理解し成長に合わせた支援を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が市街地より離れているため、保護者の送迎の負担がある。また送迎に時間がかかる。	送迎先を拡大し、保護者の負担を軽減する。	業務内容の整理整頓をして、送迎先が増えても可能かどうか検討していく。
2	活動内容を幅広く考えて利用児に提供していく必要がある。	将来の自立に向けた支援ということで、特に高等部の児童に対しては、作業や家事スキル等の活動時間を増やしていく	計画的に活動内容を決めて職員会議の中で検討していく。職員同士意見を出し合い利用児一人一人に何が必要かしっかりとアセスメントを取り活動を提供していく。
3			